

エコアクション21 環境経営レポート 54期

(期間 自：令和5年8月1日 至：令和6年7月31日)



令和6年10月4日発行

静岡県牧之原市地頭方2194番地の8

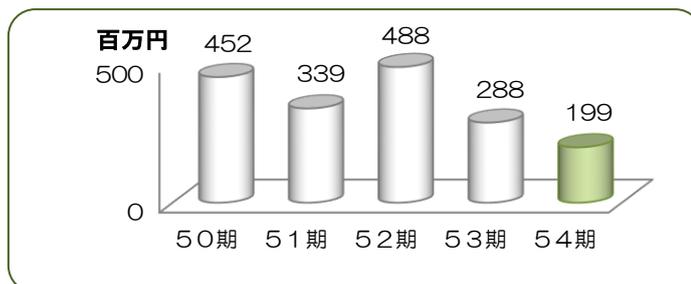
 共和建設株式会社

目 次

1. 事業概要	1
2. 対象範囲	2
3. 環境経営方針	3
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画	5
6. 環境経営目標実績	6
7. 7-1. 取組状況	7
7-2. 取組結果と評価	8
8. 環境関連法規の遵守状況	9
9. 代表者の評価	10
10. 地球環境への取組	11

1. 事業概要

■会社名	共和建設株式会社	
■代表取締役	増田 政義	
■事業所	本社	静岡県牧之原市地頭方2194番地の8
	倉庫・資材置場	静岡県牧之原市新庄465
	白井資材置場	静岡県牧之原市白井85番地の2
■法人設立	昭和46年4月22日	
■環境経営管理責任者 及び連絡先	常務取締役 八木 保之	
	TEL	0548-58-0531
	FAX	0548-58-1784
	e-mail	y-yagi@kyouwa-k.jp
■事業内容	特定建設業	
	静岡県知事許可（特一1）第002130号	
	【許可年月日】	令和2年3月25日
	【有効年月日】	令和7年3月24日
	土木工事業、しゅんせつ工事業、とび・土木工事業、解体工事業、 石工事業、水道施設工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業	
■保有車両	普通自動車（ハイブリッド車）	3台
	普通自動車	1台
	軽自動車	4台
	工事用車両（トラック・ダンプ2t～3t）	5台
	工事用車両（大型トラック）	1台
■保有機械	掘削機・積込機械	3台
	舗装工事用機械	6台
■事業規模	資本金	2,550 万円
	社員数	11 名
	本社延床面積	438.78 m ²
	本社倉庫床面積	16.77 m ²
	倉庫延床面積	244.81 m ²
	資材置場面積	1,373.19 m ²
	総売上高	19,852 万円



事業年度 期首 8月1日 より 期末 翌年7月31日 までの1年間

3. 環境経営方針

■環境理念

共和建設株式会社は、「エコアクション21」環境経営システムを構築し、社員一丸となって環境経営を推進し地球環境の保全に貢献します。

■環境経営方針

- ・社員全員が環境経営方針を認識し、地球環境の保全・保護のために身近なところから取組み、継続的に改善に努める。



- ▶地域社会のインフラ整備への貢献
- ▶環境に配慮した施工を行い、工程・安全・品質管理の推進
- ▶建設廃棄物・一般廃棄物の排出量の削減と建設副産物の3Rの推進
- ▶ICT化による工事の効率的運用の推進
- ▶地域貢献及びボランティア活動への参加

- ・地域社会のインフラの整備及び災害時の復旧への対応する人員確保と育成を行う。



- ・社員の知識・技能の向上できる環境の整備を行う。

- ・建設機械等設備を計画的に設備投資を行い、事業活動の継続体制を確立する。



- ・環境関連法規を遵守する。

- ・環境経営に関する社員教育及び訓練を実施し、全社員に周知徹底する。

- ・環境経営レポートを社内外へ公表する。

制定 平成21年4月1日
改訂(4) 令和元年8月1日

共和建設株式会社
代表取締役 増田 政義

4. 環境経営目標

項目	単位	環境経営目標値 ※2				
		基準値 ※1	54期	55期	56期	
		過去4期平均	R5.8.1~R6.7.31	R6.8.1~R7.7.31	R7.8.1~R8.7.31	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ ※4	100,297	99,294	98,301	97,318	
	原単位評価 ※3	255.9	253.3	250.8	248.3	
購入電力	事務所	kwh	28,030	27,750	27,472	27,197
	原単位評価 ※3		72.9	72.2	71.4	70.7
工事現場	kwh	32,126	31,805	31,487	31,172	
	原単位評価 ※3		77.7	76.9	76.2	75.4
化石燃料	ガソリン	ℓ	12,420	12,296	12,173	12,051
	原単位評価 ※3		32.7	32.4	32.0	31.7
	軽油	ℓ	16,957	16,787	16,620	16,453
	原単位評価 ※3		42.9	42.5	42.0	41.6
LPガス	kg	143	142	140	139	
	原単位評価 ※3		0.4	0.4	0.4	0.4
灯油	ℓ	29	28	28	28	
	原単位評価 ※3		0.1	0.1	0.1	0.1
水資源	上水道	m ³ /一人当り	6.9	6.8	6.8	6.7
	農業用水		4.1	できるだけ使用することを目標とする		
一般廃棄物排出量	kg/一人当り	15.8	15.6	15.5	15.3	
産業廃棄物排出量	t	2,395	受注工事量・工事内容によって数量が変動する為、実績のみを集計し発生量の縮減に努める。特に最終処分場への排出量は徹底的に減らす。			
車両燃費年間平均値	ガソリン車	km/ℓ	14.2	14.2	14.2	14.2
	ディーゼル車		5.5	5.5	5.5	5.5
AS合材ロス率	%	6.5	6.4	6.4	6.3	
環境配慮型事業	工事金額(百万円)	235	235	235	235	
	原単位評価 ※3	63	63	63	63	
グリーン購入の推進	事務用品等の購入に関しては数値の目標は定めず、コスト削減に逆行しない様に対象品目を選定して購入する。 公共工事がメインとなる工事現場では予め基本対象品は指定されているので、その中でも特に再生資源材及び環境に影響を及ぼさない資材を優先購入する。					
苦情の発生防止	工事現場付近での交通規制や迂回に関して、看板又は口頭で十分な説明と案内を心掛ける。 産業廃棄物収集・運搬では、騒音・振動の抑制に留意する。					

※1 基準値は過去4期分の実績結果を平均値化したものを基に設定した。

※2 目標値は基準値より1%程度ずつ削減する事を想定したものを設定した。現状削減を見込めないものについては基準値に対して同等値以下になる様に削減努力を行うものとする。

※3 原単位評価は、完成工事高当りの数値とする。

※4 電力事業者別（中部電力株）のCO₂排出係数0.421kg-CO₂/kWh（調整後）最新数値を使用する。

今後3期経過途中でも、問題があれば目標値、設定方法を見直すこととする。

5. 環境経営計画

目標項目	取組活動	担当部署	担当者
消費電力の削減	不在時には照明、空調、OA機器はOFFにする エアコンの設定温度を省エネ温度にする様努力する 太陽光等の自然エネルギーを電源とする機器の採用	全部署	全社員
	電気機器等の省エネタイプへの切り替え（買い替え時検討） エアコンの定期清掃（年1回程度、設備・清掃会社に委託）	総務部	総務部長
消費化石燃料の削減	駐車時はアイドリングストップ 重機・車両の点検と整備の実施 急発進、急加速はしない 後部、トランク内の不要な積載物は無くす	全部署	全社員
	重機・車両を効率の良いサイクルで利用計画を立てる 工事用車両の過積載の防止	工務部	現場担当者
	重機・車両の低燃費車への切り替え（入り替え時検討） リース機械・車両は低燃費型を使用する	総務部	総務部長
消費水資源の削減	手洗い時等は、こまめに栓を閉める 洗車時は、流しっぱなしにして洗わない 漏水等の確認、漏水時等の修繕の徹底	全部署	全社員
	工事に使用する上水道の削減	総務部	総務部長
一般廃棄物排出量の削減	会議資料のペーパーレス プロジェクター等の利用 ミスコピー紙の裏面使用 紙類等再資源化への廃品回収（廃品リサイクル業者へ持ち込み）	全部署	全社員
産業廃棄物排出量の削減	調達資材を抑制する為の合理化 廃棄物の分別の徹底 廃棄物の再資源化・再利用の促進 納入資材の過剰梱包の削減を納入業者に協力を得る	工務部	現場担当者
AS合材ロス率	AS合材の材料のロスを減少させる為、舗設機械にセンサーを取付けて所定の厚さを確保し、基本数量に近付けて残材等を減らす	工務部	現場担当者
グリーン購入の推進	事務用品は、グリーンマーク・エコマークの表示された物の購入を努力する（納入業者にアドバイスを求める）	総務部	担当者
	適切な再生資源利用促進計画を作成して、それに従い購入する ※出来るだけ再生原料を使用している資材を購入する	工務部	現場担当者
環境に配慮した施工	実質工事期間の短縮に努める 建設機械・車両は、低燃費・CO ₂ 排出量の少ない機種を選定する 建設機械は、無振動・無騒音の機種を選定する 使用資材は、環境に悪影響を及ぼす物質は極力使用しない 県内産の木材を極力使用する 再生資材を出来るだけ使用する（グリーンマーク等の確認）	工務部	現場担当者
苦情の発生防止	工事現場周辺の近隣住民・関係者には、工事内容・交通規制・迂回等について、理解・協力を得られる様に十分な説明・案内を行う 施工時間帯・施工方法・施工機械機種の選定は十分検討し着手する 収集運搬物の飛散防止	工務部	現場担当者
地域の環境保全への取組	しずおかアダプト・ロード・プログラムの実施 地元・所属団体等の環境保全活動への参加協力 その他ボランティア活動への参加	全部署	全社員

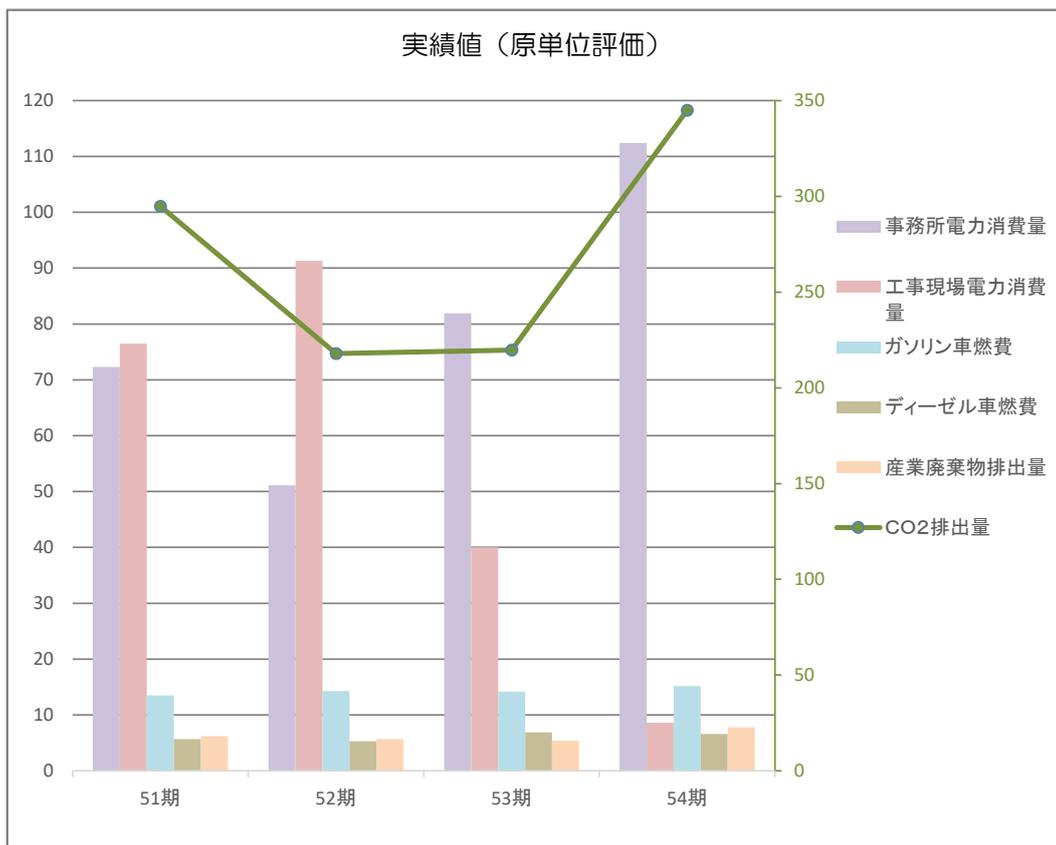
引き続き「該当箇所に注意喚起のシールを貼る」、「朝礼・K.Y時に注意喚起する」等を行うことにより社員の環境活動への意識を常に高め、計画の実行を促すよう努める

計画責任者 八木 保之

6. 環境経営目標実績

※54期完成工事高 198.52百万円

項目	単位	目標値		実績値		
		目標	原単位評価	値	原単位評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	99,294	253.3	68,551	345.3	
購入電力	事務所	kwh	27,750	72.2	22,311	112.4
	工事現場	kwh	31,805	76.9	1,707	8.6
化石燃料	ガソリン	ℓ	12,296	32.4	8,398	42.3
	軽油	ℓ	16,787	42.5	14,990	75.5
	LPガス	kg	142	0.4	36	0.18
	灯油	ℓ	28	0.1	70	0.35
使用水資源	上水道	m ³ /一人当り	6.8	—	8.4	—
	農業用水		—	—	17.3	—
一般廃棄物排出量	kg/一人当り	15.6	—	24.4	—	
産業廃棄物排出量	t	2,395	6.1	1,555	7.8	
車両燃費 平均値	ガソリン車	km/ℓ	14.2	—	15.2	—
	ディーゼル車	km/ℓ	5.5	—	6.6	—
AS合材ロス率	%	6.4	—	12.1	—	
環境配慮型事業	百万円	235	63	152	77	
苦情の発生防止	件	0	0	0	0	



7-1. 取り組み状況

令和5年8月 ~ 令和6年7月

推進事項	対策	担当部署	担当者	年間スケジュール												備考	
				8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7		
消費電力の削減	不在時には照明、空調、OA機器はOFFにする エアコンの設定温度を省エネ温度にする様努力する 太陽光等の自然エネルギーを電源とする機器の採用	全部署	全社員														注意喚起のシールを貼る 朝礼時に喚起、励行する
	電気機器等の省エネタイプへの切り替え エアコンの定期清掃（年1回程度）	総務部	総務部長														清掃 買い替え時検討する 設備・清掃会社に委託する
消費化石燃料の削減	駐車場はアイドリングストップ 重機・車両の点検と整備の実施 急発進、急加速はしない 後部、トランク内の不要な積載物は無くす	全部署	全社員														運転席回りに注意喚起のシールを貼る 朝礼時に喚起、励行する
	重機・車両を効率の良いサイクルで利用計画をたてる 工事車両の過積積の防止	工務部	現場担当者														施工計画時に十分検討・実施する K.Y時に喚起、励行する
	重機・車両の低燃料車への切り替え リース機械・車両は低燃費型を使用する	総務部	総務部長														入替時検討する リース機械・車両は低燃費型を使用する
消費水資源の削減	手洗い時等は、こまめに栓を閉める 線社寺は、流しっぱなしにして洗わない	全部署	全社員														注意喚起のシールを貼る
	漏水等の確認、漏水時等の修繕の徹底 工事に使用する上水道の削減	総務部	総務部長														全員が日々注意し、漏水時は直ぐに 止水し、修繕を業者に依頼する
一般廃棄物排出量の削減	会議資料のペーパーレス、プロジェクター等の利用 ミスコピー紙の裏面使用 紙類等再資源化への廃品回収	全部署	全社員														廃品リサイクル業者に持ち込む
産業廃棄物排出量の削減	調達資源を抑制する為の合理化 廃棄物の分別の徹底 廃棄物び再資源化・再利用の促進 納入資材の過剰梱包の削減を納入業者に協力を得る	工務部	現場担当者														施工計画時に十分検討・実施する 例として搬入時のパレットは回収して頂く
As 合材ロス率の削減	AS合材の材料のロスを減少させる為、舗装機械にセンサーを取り 付けて所定の厚さを確保し、設計数量に近づけて残材等を減らす	工務部	現場担当者														各工事施工期 各工事施工期 路盤の基準高の精度を高め、重機に センサーを取付所定の厚さを確保する。
グリーン購入の推進	事務用品はグリーンマーク・エコマークの表示された物の 購入を努力する	総務部	担当者														購入時、表示マークを確認する 納入業者にアドバイスを受ける
	適切な再生資源利用促進計画を作成して、それに従い購入する ※出来るだけ再生原料を使用している資材を購入する	工務部	現場担当者														各工事施工期 購入時、表示マークを確認する 納入業者にアドバイスを受ける
環境に配慮した施工	実質工事期間の短縮に努める 建設機械・車両は、低燃費・CO2排出量の少ない機種を選定する 建設工事機械は、無振動・無騒音の機種を選定する 使用資材は、環境に悪影響を及ぼす物質は極力使用しない 県内産の木材を極力使用する 再生資材を出来るだけ使用する	工務部	現場担当者														各工事施工期 各工事施工期 施工計画時に十分検討・実施する リース時には、低燃費・無振動・無騒音型 の機械・車両を使用する 例として塗料等は水性のものを使用する 購入時に県内産が確認する 購入時、グリーンマーク等を確認する
苦情の発生防止	工事箇所の近隣住民・関係者に工事内容・交通規制・迂回等につ いて、理解・協力を得られる様に十分な説明・案内を行う 施工時間帯・施工方法・施工機械機種の選定は十分検討し着手する 収集運搬物の飛散防止	工務部	現場担当者														各工事施工期 各工事施工期 事前の挨拶周り、現場周辺の看板の設置を 徹底して行う 下請業者を含めて誰もが工事内容・迂回等 について案内できる様に準備をする 運搬車両に覆い用シートを用意する
地域の環境保全への取り組み	しずおかアダプトロード・プログラムの実施 地元・所属団体等の環境保全活動への参加協力 その他ボランティア活動への参加	全部署	全社員														港湾 清掃 毎月1回程度実施する 道路 愛護 随時対応する

7-2. 取組結果と評価

◎ 良く出来た ○ 成果が認められる △ 多少出来た × 全く出来なかった

	取組活動	評価		評価と今後の取組
		上半期	下半期	
①消費電力の削減	不在時には照明、空調、OA機器はOFFにする	○	△	エアコンの消費電力を抑えるために、これまでのサーキュレーターに加え、個々に扇風機や電気ストーブを必要に応じ使用する等の対策を取った 事務所2Fの照明器具を、蛍光灯からLEDに交換する事により、省エネタイプへの切り替えが進んだ 引き続き、消費電力の削減に取り組んでいきたい
	エアコンの設定温度を省エネ温度にする様努力する	○	△	
	太陽光等の自然エネルギーを電源とする機器の採用	△	△	
	電気機器等の省エネタイプへの切り替え	○	○	
	エアコンの定期清掃（年1回程度）	○	△	
②消費化石燃料の削減	駐車時のアイドリングストップ	○	○	社用車のエコカー導入を進めている段階にあり、ガソリン車の燃費に効果が表れてきている 引き続き、社用車と共に工事用車両のエコカー導入も検討していきたい 重機の低燃費化は長期的な目標として進めていきたい
	重機・車両の点検と整備の実施	○	○	
	急発進・急加速はしない	○	○	
	後部・トランク内の不要な積載物を無くす	○	○	
	重機・車両の効率の良い利用計画の実施	○	○	
	工事用車両の過積載の防止	○	○	
	重機・車両の低燃費車への切り替え	○	○	
	リース機械・車両は低燃費型を使用する	○	○	
③消費水資源の削減	手洗い時等は、こまめに栓を閉める	○	○	工事に使用する水は可能な限り農業用水を利用するようになった 今後も、工事用水は農業用水及び河川等の水を利用する様に努める
	洗車時は、ホースの水を流しっぱなしにしない	○	○	
	漏水等の点検、修繕の徹底	○	○	
④一般廃棄物の排出削減	会議資料のペーパーレス、プロジェクターの利用	△	△	ミスコピー紙の裏面使用はかなり徹底されてきている 電子帳簿保存法により書類の電子化は少しずつではあるが進んでいる 今後も排出量削減に努めたい
	ミスコピー紙の裏面使用	○	○	
	紙類等再資源化への廃品回収	○	○	
⑤産業廃棄物の排出削減	調達資材を抑制する為の合理化	○	○	完工高の減少に伴い、排出量総量も減少した 主なコン殻、アス殻については再資源化、再利用されている 引き続きAS殻、CO殻の再資源化率100%に努める
	廃棄物の分別の徹底	○	○	
	廃棄物の再資源化・再利用の促進	○	○	
⑥AS合材のロス率削減	納入資材の過剰梱包の削減を納入業者に協力を得る	○	○	今期は舗装工事件数が少なく、さらに規模が小さな工事現場がほとんどであった為、ロスを減少させる事が難しかった 今後も減少出来る様に工夫する
	AS合材のロスを減少させる為、舗装機械にセンサーを取付けて所定の厚さを確保し、設計数量に近付て残材を減らす	○	○	
⑦グリーン購入の推進	事務用品は、グリーンマーク・エコマークの表示された物品の購入を努力する。	○	○	購入している物は、出来る限りグリーン購入している 再生資源材となるものは、全て再資源化する 今後もグリーン品目を見直し、購入に努めること
	工事現場は、再生資源利用促進計画を作成して、それに従い購入する。	○	○	
⑧環境に配慮した施工	実質工事期間の短縮に努める	○	○	実質の施工日数はほぼ工程通りであり今後も工期短縮に努める 自社で選定できる車両、機械は省エネ、CO2削減機種を選択できた 特に環境に悪影響を及ぼす物質は使用しなかった 環境に配慮した資材を今後も採用する様に努める 県内産の木材等の採用に努める 再生資源材の採用に努める
	建設機械・車両は、低燃費・CO ₂ 排出量の少ない機種を選定する	○	○	
	建設機械は、無振動・無騒音の機種を選定する	○	○	
	使用資材は、環境に悪影響を及ぼす物質は極力使用しない	○	○	
	県内産の木材を極力使用する	○	○	
⑨苦情の発生防止	再生資材を出来るだけ使用する	○	○	今期も無事工事を完成させることができた 地元住民関係者の皆様のご協力とご理解への感謝の気持ちを忘れず邁進して参りたい 今後も事前の挨拶回り、説明会を実施していくと共に 工事施工期間中のご案内・ご説明にも対処できる様準備を怠らない様にしていきたい
	工事現場周辺の近隣住民・関係者には、工事内容・交通規制・迂回等について、理解・協力を得られる様に十分な説明・案内を行う	○	○	
	施工時間帯・施工方法・施工機械機種の選定は十分検討し着手する	○	○	
	収集運搬物物の飛散防止	○	○	
⑩環境保全	しずおかアダプト・ロード・プログラムの実施	○	○	極力毎月一度は実施する様にしたが、繁忙期には実施できない月があった 今後も継続して実施する
	地元・所属団体等の環境保全活動への参加協力	○	○	
	その他ボランティア活動への参加	○	○	

8. 環境関連法規の遵守状況

☆事業者が遵守すべき主な環境関連法規です

適用される法規	適用内容	状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	適正な収集運搬・処分業者との委託契約	○
	委託契約書保管義務(5年間)	○
	マニフェストの適正管理と保管(5年間)	○
	マニフェスト年度集計・報告義務	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	特定建設資材廃棄物の分別・再資源化分別解体の計画・実施・報告の義務	○
資源有効利用促進法(PCRサイクル法)	特定OA機器の適正処分	該当なし
騒音規制法	特定建設作業の届出、規制値の遵守	該当なし
振動規制法	特定建設作業の届出、規制値の遵守	該当なし
浄化槽法	浄化槽の設置・変更の届・法定点検の実施	○
生物多様性基本法	生物の多様性の保全及び持続可能な利用	○
牧之原市環境基本条例	廃棄物の減量化・適正処分	○
	占有する土地・建物の清潔を保つ努力	○
土壤汚染対策法	土壤の特定有害物質による汚染の防止	○
水質汚濁防止法(水濁法)	公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの排出抑制する努力	○
環境基本法	環境保全上の支障を防止する責務	○
循環型社会形成推進基本法	廃棄物の循環的利用と適正処分	○
化学物質排出把握管理促進法(化管法)	化学物質の適正な保管・管理・所定の報告	該当なし
グリーン購入法	環境物品を購入する努力	○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	特定家電製品の適正処分	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	所有自動車の適正処分	該当なし
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	排出事業者の処理責任の徹底	○
	県外から搬入される産業廃棄物の適正管理	該当なし
	処理業者による不適正な処理の防止	○
	不法投棄に利用されないための土地の適正管理	○
	処理施設設置者の周辺住民に対する説明責任の徹底	該当なし
フロン排出抑制法	フロン使用機器等の適正な処理の委託	該当なし
労働安全衛生法	該当工事の届出(石綿関連工事等)	該当なし

環境関連法規については、遵守状況を確認したところ違反はありませんでした。

又、関係当局よりの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

確認日

令和6年10月1日

環境管理責任者

八木 保之

9. 代表者の評価

○ 継続 △ 一部見直し × 全体の見直し

項目	評価	次年度へ
① 対象範囲	○	維持、継続して活動する
② 環境経営方針	○	全員が環境経営方針を再確認し、環境経営目標を達成される様にする
③ 環境経営目標	○	来期の結果から、中期の具体的目標値を見直しする
④ 環境経営活動計画	○	維持、継続して活動する
⑤ 環境経営活動の取組結果と評価	○	維持、継続して活動する
⑥ 環境関連法規の遵守状況	○	今後も法令順守に努める
⑦ 地域環境への取組	○	維持、継続して活動する

全体の評価

2020年からのコロナ禍が落ち着き日々の生活は平常に戻りつつある中、建設業界ではコロナ後の需要回復による木材や鋼材の価格高騰に加え、ウクライナ情勢によるエネルギー価格の上昇や急激な円安による資材高騰が加わり厳しい状況が続いています。

このような状況の中、長年の課題である人手不足や労働者の処遇を改善していく手立てとして建設業界ではDX化が進められていますが、弊社ではドローンの活用や3次元データによる施工、施工管理といったICTの活用を建設現場に導入することによって生産性を向上させる事を目的に「i-construction」に取り組んでいます。

今後も新たな取り組みを模索しながら全社で様々な課題に向き合い、環境に配慮した施工をしまいたいと考えます。

令和6年10月3日

共和建設株式会社

代表取締役 増田 政義

道路愛護活動



しずおかアダプトロードプログラム

(国)150号 地頭方区・落居区 路肩清掃作業
(令和6年4月1日)

毎月1回程度実施



御前崎港港湾建設工事安全協議会主催
海岸清掃活動(令和5年11月22日実施)

御前崎市 久々生海岸